

近畿地域の活断層の長期評価（第一版）のポイント

近畿地域を対象に、陸域及び沿岸海域に分布し、M6.8以上の地震を引き起こす可能性のある活断層を総合的に評価する「活断層の地域評価」を実施

- 近畿地域を近畿北西部、近畿三角帯、紀伊半島の三つの区域に区分 新規公表
 - 近畿北西部7、近畿三角帯38、紀伊半島1の活断層を評価*1。全ての主要な活断層帯の既存評価を改訂*2 改訂+新規公表
 - M6.8以上の地震が今後30年以内に発生する確率を各区域で評価 新規公表
- *1 中央構造線断層帯は、紀伊半島・近畿三角帯との境界に位置するため、両区域に属する活断層帯として評価を行った。
*2 中央構造線断層帯は、四国地域の活断層の長期評価の際に改訂しているため、今回は改訂していない。

区域の特徴

近畿北西部	主要活断層帯が複数存在 過去約100年間の地震活動は活発
近畿三角帯	国内でも活断層が集中的に分布しており、それらの活動度も高い
紀伊半島	既知の活断層を起源とする地震活動は低調

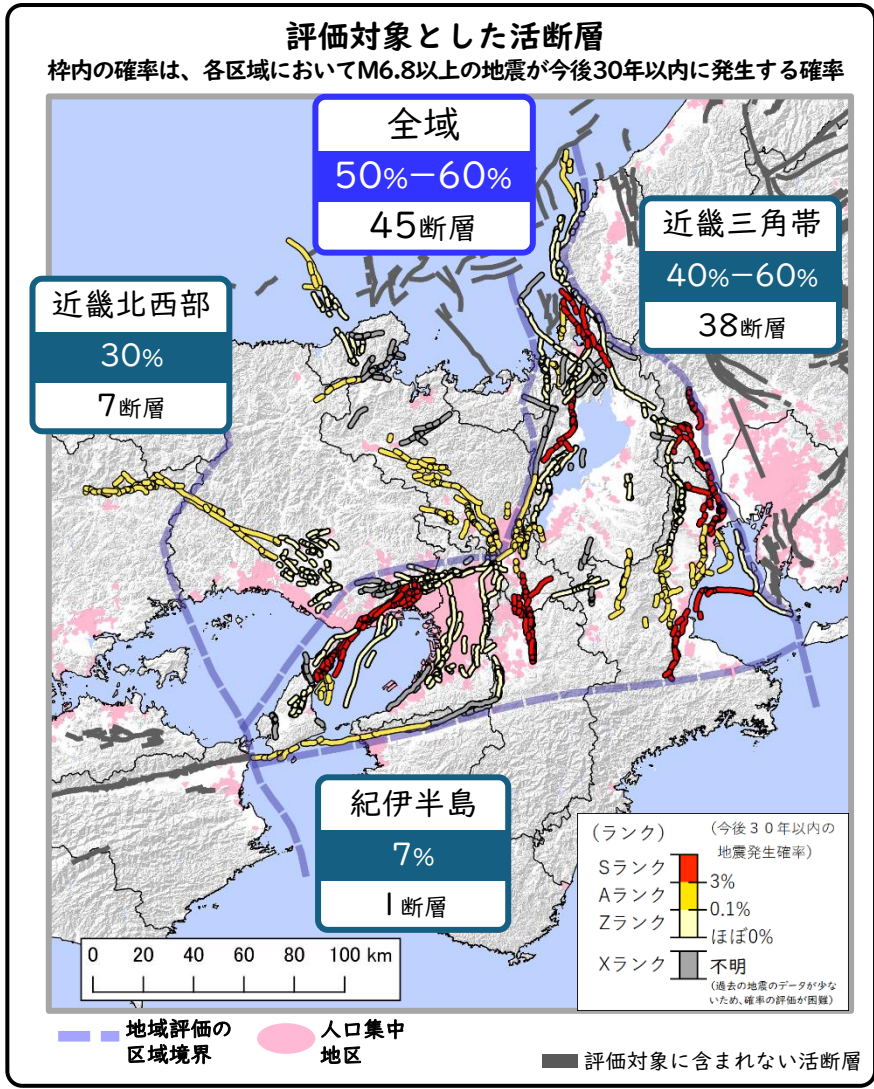
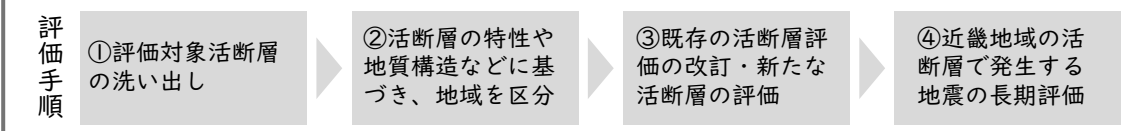
「活断層の地域評価」

➤ 陸域及び沿岸海域に分布し、社会的、経済的に大きな影響を与えうると考えられるM6.8以上の地震を引き起こす可能性のある活断層について、対象とする地域ごとに総合的に評価する。これまで、九州（平成25年）、関東（平成27年）、中国（平成28年）、四国（平成29年）の各地域を対象に「活断層の地域評価」を実施してきた。

➤ 従来、陸域の主要な活断層帯（M7以上の地震を想定）を対象として個別に評価していたが、M7未満の地震でも被害が生じること、地域によって活断層の特性に共通性があること等から、M6.8以上の地震に評価対象を広げ、地域単位でも活断層を評価している。

（海域）活断層で発生する地震
（陸域）活断層で発生する地震
海溝型地震
海洋地殻
大陸地殻
沈み込むプレート

「活断層の地域評価」では、陸域の活断層及びその沿岸海域延長部で発生する地震を対象としている。



参 考

九州地域	中国地域	四国地域	関東地域
30%－42%	50%	9%－15%	50%－60%
28断層	24断層	5断層	24断層

今後は、中部、東北、北海道の各地域を対象に、「活断層の地域評価」を実施し、その結果を順次公表していく予定。